

(3) 地層に近づいて、その特徴を観察させる。

㊸層は緑色をして、うすくはがれ、割れ易い性質をもった岩石で、その割れ易い方向が斜めになっています。

この岩石は緑色の結晶片岩と呼ばれる変成岩です。



㊹層は1 cm~10 cm大の角ばったレキで、多くは㊸層の結晶片岩のレキがつもってできたレキ層です。

㊺層は砂と火山灰が水中につもってできた地層で、触るとクレンザーのような手ざわりを感じます。地層の厚さは1 mほどで青味を帯びた凝灰岩質砂層です。

㊻層は淡い茶色をしており、ロームと砂が混じった感じの砂層で3 cmほどつもっています。

このかきで観察される最下部の結晶片岩は、先カンブリア紀に海底につもった土砂が古生代と中生代の地殻変動で変成作用を受けてできたと考えられる変成岩です。この変成岩と㊹層との境はデコボコしています。この境界は㊸層が以前陸地であった頃に浸食を受けてできたもので、その後の地殻変動で水面下に没し、その上に㊹~㊻層がつもったことをあらわしています。